

水稲の種まき始まる



千厩水稲育苗センターで4月5日、平成30年産米のは種作業が始まりました。5月6日までに、ひとめぼれ、あきたこまち、こがねもちなど5品種を3万5600箱には種する予定です。

生きがいくりに一役



JAカラオケ教室が4月11日に開講しました。11月までの16回講座で、気の合う仲間と歌唱力の上達を目指し練習を重ねていきます。

生育状況に応じた栽培管理を確認



JAきゅうり部会は4月12日、促成キュウリの巡回指導会を行いました。生育状況を確認し今後の栽培管理を学びました。

圃場準備がカギ



JAトマト部会は4月11日、管内の圃場4カ所で現地座談会と指導会を行いました。圃場準備中や定植後の水管理などについて活発に意見を交わしました。

管理や作業のポイントを確認



室根地区の第1回稲作座談会が4月17、18の両日間9会場で行われ、育苗管理や田植え、除草防除について理解を深めました。

ラッカセイに新たに挑戦



JA女性部川崎中央支部は4月10日、畑の講習会開校式を開きました。地元の上沼清一さんを講師に、ニンジンやゴボウ、ラッカセイなどの栽培に挑戦します。



挿し芽の手ほどきをする小山さん[㊤]

苗管理技術の早期習得を目指す

管理技術のポイントなど学ぶ

一関地方農林業振興協議会は4月9日、藤沢町の小山里子さんの圃場で花き栽培初心者セミナーを開きました。安定的な苗の確保が新規栽培者などの課題となっていることから、優良圃場を参考にしながら育苗管理技術の早期習得を図り、所得向上を目指します。栽培3年目の池本菜津紀さんは「学んだことを生かし育苗管理技術の習得につなげたい」と意欲をみせます。



種もみに土をかぶせる児童

ぼくらのお米、すくすく育て

コメ作りを体験

金沢小学校（花泉）は4月13日、水稻の種まきを体験しました。5年生児童は「ひとめぼれ」の種もみをまばらにならないように注意しながら苗箱にまき、種もみがしっかり隠れるように土をかけました。佐々木陽迅くんは「おじいちゃんの手伝いもしていたので、ちゃんとまけた。すくすく育てほしい」と期待を寄せました。田植え体験は5月上旬に行う予定です。



温度管理や水管理について情報交換する部会員

生育状況は良好、適期管理の徹底を

圃場を巡回し生育状況を確認

J Aトマト部会は4月17日、半促成トマト巡回指導会を開きました。良品質のトマト栽培に向けてハウス内の温度管理や水管理について情報を交換しました。5月上旬の出荷に向けて栽培管理に生かします。一関農業改良普及センターの柴田愛里普及員は「生育状況は良好で、草勢を落とさないように適切な摘果と、灌水の管理をしてほしい」と話しました。



体験発表をする渋谷さん



表彰式の様子

J Aの自己改革を積極的に後押し

J Aと地域の懸け橋となり元気な地域を

J A岩手県女性組織協議会は4月11日、通常総会とJ A女性組織活動体験発表会を盛岡市で開きました。30年度は部員増加運動やJ A経営への参画などに取り組むことを確認。また、自己改革に関する特別決議を採択しました。体験発表会では、J A女性部一関中央支部萩荘支部の渋谷早苗さんが女性部活動を例に挙げ、部員や地域とのつながりの大切さを熱弁しました。



委嘱状を受け取る佐藤幸子さん(室根)



甘いイチゴ食べ放題

地域の活性化と生活文化の向上へ

生活シーダー委嘱状交付式

J Aは4月25日、生活シーダー委嘱状交付式を開きました。新しい5人を含む37人が生活シーダーとして登録されました。生活シーダーは料理、手芸、園芸や着付けといったさまざまな分野の特技や趣味を生かし、地域住民の生活文化活動や健康管理活動などのサポートを行います。講師紹介や派遣依頼は各営農経済センターにお問い合わせください。

イチゴ狩り体験で交流

満足の行くまでイチゴを堪能

J A青年部協議会は4月22日、生産者とのつながりを強め、地元農業に理解を深めてもらおうと児童養護施設一関藤の園の子どもたちを招きイチゴ狩り体験を初めて開催しました。J Aいちご生産部会の佐藤正弘部会長の園地に27人が訪問。赤く熟した「やよいひめ」を口いっぱい頬張りました。那須俊裕会長は「親睦の場を積極的に設けていきたい」と話しました。



説明を注意深く聞く生産者



摘心技術を確認する部会員

適期作業を呼び掛け

遅霜に注意を

J Aりんご部会は4月10、11の両日、定例指導会を開き、芽出し10日後の防除のタイミングや受粉作業などについて確認しました。小岩克宏部会長の園地で開いた指導会には、生産者ら16人が参加。一関農業改良普及センターの薄衣麻里子普及員が気象経過や生育状況などを説明。園芸課の村上廣美職員は、適期作業と遅霜への注意を呼び掛けました。

お盆の需要期向け適期作業を

小菊苗の模型を作り指導

J A花き部会小菊専門部は4月17日からの3日間、指導会を開きました。6月下旬の出荷を目指し定植の圃場準備と摘心技術を確認しました。J A南部園芸センター会場には、生産者ら20人が参加。小菊苗の模型を用いて摘心方法を確認しました。一関農業改良普及センターの鈴木翔普及員は「お盆の需要期を目指し適期作業を心掛けてほしい」と話しました。



団結する各支部役員と金野会長（左から4人目）

協力し合い楽しく活動を

JAハートフル総会

JAハートフルは4月25日、通常総会を開きました。30年度は、「地域みんなで支え合う」を目標に、介護施設への慰問活動や研修会などを通じ、いきいきと心豊かに暮らせる社会に向けて活動を行います。30年度の会長には、藤沢支部の金野愛子さんが承認されました。金野会長は「協力しながら楽しく活動の輪を広げていきたい」と話しました。



販売実績を確認する生産者ら

品質を保持し長期出荷を

いちご生産部会中間実績検討会

JAいちご生産部会は4月24日、中間実績検討会を開きました。定植後は花芽が進み昨年より早く花が咲いたものの、12月から2月の寒気の影響で生育が遅れ1月以降の出荷量が前年を下回ったと報告。残り2カ月の出荷期間で挽回を図っていきます。佐藤正弘部会長は「品質を保持しながら、6月まで出荷できるように栽培管理に努めたい」と意気込みました。



ガンバロウ三唱で心を一つに

全役職員の意識を統一

自己改革に邁進

JA全職員統一集会を3月31日、一関文化センターで開き役職員約380人が参加しました。農家所得の増大と農業生産の拡大に向け、地域との結びつきの強化を図り、組合員に評価される総合事業を行うため全役職員の意識を統一。佐藤鉦一組合長は「組合員のニーズも変わってきている。今、そして将来に向けた事業展開の在り方を考えていく必要がある」と訓話しました。



東京で乾シイタケを販売する興田中生徒

原木シイタケ生産者の思いを届けたい

地元特産品をPR販売

興田中学校（大東）の3年生は4月19日、修学旅行先の東京都内で大東町産原木乾シイタケの販売を行いました。地元産を広くアピールしようと、生徒が地元産を応援する気持ちを込めて乾シイタケの魅力を発信。村上奈々美さんは「販売活動を体験し地元産を応援したい気持ちが一層強まった。今後も魅力の発信を続けていきたい」と目を輝かせました。